

地域づくり表彰

HUB a nice d! (鹿児島県瀬戸内町)

～ひとりのママの孤独から始まった地域の人が集まり
チャレンジが生まれる小さな拠点づくり～

ハブアナイスティ!
HUB a nice d!
代表
やまもと みほ
山本 美帆



1) HUB a nice d! 所在地域の概要

世界自然遺産に登録された鹿児島県の離島、奄美大島の南部に位置する瀬戸内町阿木名地区にHUB a nice d!があります。空港から車で2時間弱、海と山に囲まれた自然豊かな小さな集落です。



伊須湾に朝日が昇る阿木名集落

約750人が暮らしており、平成31年3月に陸上自衛隊の官舎が建設され、転勤族の移住家族が約2割の人口を占めています。

2) HUB a nice d! の概要と取り組み

HUB a nice d! は築70年の空き家を地域の方々と共にリノベーションをして生まれました。

チャレンジ&コミュニティスペース HUB a nice d!



ロゴに込めた願い

- 奄美大島に生息するハブをモチーフに、太陽から出てくる様子
- 蛇のハブ：金運アップの象徴（創業支援）
- HUB：集まる・拠点という意味
- ハブアナイスティ：良き1日を過ごせるようにという願い

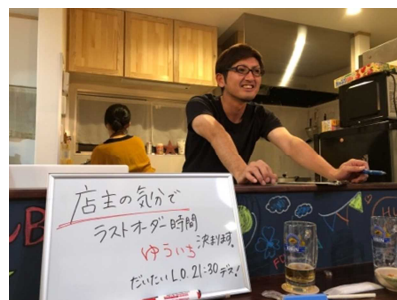
多くの人が集まるHUBの拠点

一人ひとりのやりたいこと・チャレンジしたいことにフォーカスして、曜日・時間毎に様々な取り組みが生ま

れるよう、3つの「創る」を実現できる場に育てています。

①夢を叶える小さな一歩を踏み出す場を創る「チャレンジショップ」

飲食店を開きたい夢をもつが、資金面や物件を保有することなど開業へのハードルが高く、なかなか踏み切れない人や、小規模や副業としての開業を考えている人への店舗貸し提供や経営支援を行なっています。転勤族のママが期間限定で数ヶ月間カフェを開業したり、副業で週末のみ居酒屋を開業したり、他地域に店舗を持つ飲食店が出張出店をしたり、小さく始める一歩の場として機能しています。元は飲食店が無かった集落なので、食を通じて人の流れが生まれるようになりました。



地元の青年が副業で居酒屋を開業

また、学習塾がない地域に、子どもたちが遊びや日常の経験から学ぶ場として平日夕方には地域の寺子屋学習塾が開業しています。元小学校教師の教室長が、奄美大島の自然豊かな環境を使い、様々な

学びを地域の子どもたちに提供しています。

子どもたちの未来や、島と本土を繋ぐ積極的なチャレンジ支援を行っています。



島外の大学生と子どもたちとの交流

(SDGs海ごみで楽器を作るワークショップ)

②多世代で地域が繋がる場を創る「コミュニティスペース」

阿木名集落やその近辺の集落の方々が、赤ちゃんから高齢者まで多世代で集い、地域のことを語り未来を描く場を作っています。現在はコロナ禍で人を多く集めることができませんが、地元の食材を阿木名集落地域食堂にてみんなで食べたり、学生と大人たちが交えて地域の未来を語ったりする場として使われています。



阿木名集落会主催の地域食堂

③ママが子連れで働ける・学べる場を創る「レンタル/コワーキングスペース」

ママたちの小商い創業支援を行ったり、子連れでも働けるようにキッズスペースや子どもたちの興味を惹く場を作ったり、子育て中で1.



ママたちの子育て×学び×仕事

も学ぶこと、働くことを諦めない場づくりを行なっています。Wi-Fi や業務用キッチンを完備しているの、料理教室や魚の捌き方教室、ハンドメイド教室やヨガなど、それぞれがやりたいことを実現できる場として活用されています。また、町の助産師とチームを組み、子育て世代に必要な情報の学びの場を継続的に開催しています。



地元の漁師による魚の捌き方講座

3)活動の動機・背景

HUB a nice d! の創設者は夫の転勤を機に、仕事を辞め、知り合いのいない奄美大島に移住しました。キャリアを失い、頼れる人もいない地に移住し、急な人生転換に戸惑い、孤独・挫折を感じました。それでも、島の人たちの温かさに触れ、自身の子育てを通して様々な人たちと出会う中で、転勤族でも子育て中でも

働ける場が欲しい、社会と繋がれる場が欲しいと、小さなチャレンジを応援しあえるコミュニティを創るために空き家を改修し HUB a nice d! を立ち上げました。

4)場づくりは地域住民と共に変化を楽しみながら

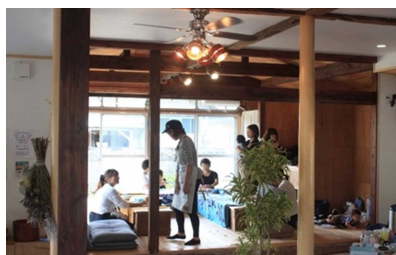
場を作る段階から、多くの地域住民を巻き込むことで、完成後を楽しみにしてくれるファンを増やすために、空き家古民家のリノベーションを行う際は、土間作り・漆喰塗り・内外装の塗装など、DIY でできる範囲は地域住民と一緒にイベントごととして実施しました。周囲の地域住民の方々だけでなく、行政職員や島外の大学生からの応援をもらいながらリノベーションを行ってきました。



住民や大学生も交えてDIY

5)人流を作りモノ・コト・ヒトが交わる拠点に

チャレンジショップとして飲食店が立ち上がり、集落に人の流れが生まれるようになりました。その後、コミュニティスペースとして様々なイベントが行われ、老若男女多世代が集まる拠点となっています。



子連れ親子の居心地の良い空間
小さな拠点ながら集落住民だけで

なく、他地域からの利用も多く、人の交流が生まれ、モノやコトの交わる部分が増えることで地域活性に繋がっています。この場で出会った地域のママたちがチームを組み、商品開発事業にも取り組んでいます。

6)地域課題を解決する新たな働き方の場として成長中

初めは孤独な一人のママの想いから始まったプロジェクトでしたが、今では地域の課題を一人で解決しようとするのではなく、移住者・地元の人と分け隔てなく、各々が得意とすることを仕事にしながら地域課題解決の糸口に繋がるステージを提供することで、地域住民が地域に関わる余白の裾野を広げています。今後は、小さな拠点で地域を楽しみながら課題を解決していきたいという仲間が集まった「ギルド組織」のまちづくり会社としての法人化を目指しています。



チャレンジの芽を育てる場

7)一人ひとりのチャレンジに光を当てるHUBとして

小さなチャレンジをしてみるならHUB a nice d!と、毎月様々なチャレンジショップやイベントが出店され人流を生み出してきました。趣味や特技を仕事として創業することを応援し、小さな一歩を踏み出す場として、これからも一人ひとりのチャレンジに光を当てて共に応援しあえるHUB 拠点として、「持続可能な地域づくり」を目指していきます。